

沼津工業高等専門学校研究報告

執筆の手引き

本研究報告に関しては、沼津高専規則集にその出版内規および投稿内規が指示されているが、この手引きでは原稿執筆、投稿についての諸心得を記す。

1 投稿資格

投稿原稿の著者（連名の場合は少なくとも1名）は沼津高専（以下本校という）の教職員であること。

2 著作権

本研究報告に掲載された記事についての著作権は本校に帰属する。ただし、これは原著者が論文を公表する権利を制限するものではない。

3 投稿原稿

学術研究・教育に関する論文であって、研究・教育上有益な事実あるいは結論を有し、原則として他誌に未発表のものとする。

4 投稿原稿の取り扱い

原稿の採否は研究報告委員会が決定し、執筆代表者に通知する。

5 原稿の書き方

原稿は、本手引きの末尾に示す図1および図2のテンプレートに従って作成すること。（テンプレートの電子ファイルは「事務部学内限定ホームページ」の「定型文書書式ダウンロード」からダウンロードできる。）ページ数は原則6ページ以内とし、偶数ページに納める。ページ数の超過は委員会の許可を必要とする。同じ題目（タイトル）の論文を分割して同じ号に掲載することは禁止する。

5.1 論文タイトル等および著者

原稿の第1枚目に、次の事項を順に書く。上部中央に適宜改行して、

本文と同じ語で、a) 表題 b) 著書名、

本文が英語でない場合は英語で、c) Title d) Author、Title では各語頭（冠詞、4文字以下の前置詞・接続詞を除く）を大文字にする。Author はフルネームをヘボン式ローマ字で書く。e) 著者名と Author の右肩に脚注印*、*1、*2、…を付ける。

これらの脚注として、本校教職員に対しては所属学科名（部署名）を、それ以外に対しては所属機関名等を、1ページ目左下部に罫線を引き区分して書く。使用言語は、上記a)～d)項と同様とする。

f) 内容が他誌に発表されたものの解説もしくは論評の旨を本文末尾に書く。

5.2 英文要旨

指定位置に200語以内の英文要旨を書く。ただし、人文系論文の場合は英文要旨を添付しなくてもよい。

5.3 キーワード (Key Words)

論文の内容を適確に示すとともに、迅速な分類・検索にも役立てることを旨とし、7.の基準に従って選定したキーワードを次のように書く。

英文要旨がある場合は、その後1行あけて左端から欄の見出し語を書く。後に2文字分空けて選定したキーワードを書く。各々は読点(,)で区切る。英語を原則とし、各語の最初の文字を大文字にする。

5.4 本文

本文の最初に緒言またははじめに (Introduction)、本文の末尾に結言またはおわりに (Summary) をつける。その間の本文は、必要に応じて大、中および小見出しを使用して区分する。

5.4.1 見出し

大・中・小3段階までの見出しは下記のように書き、それ以上必要な場合には適宜統一した形式で書く。

大見出しは、用紙の2行を1行として行間に書く。本文は、改行して書き始める。

5.4.2 表、図(写真)および記号説明一覧

本文中でのこれらの引用は順番号によって行い、最初の引用箇所では順番号を付ける。

5.4.3 脚注

脚注が必要なときは、本文中の語の末尾に†1、†2、…を付け、同じページの下部に罫線を引いて区分して書く。

5.4.4 単位と記号

単位系と記号は所属学協会の基準に従うこととするが、国際単位系(SI)に従うのが望ましい。単位記号の書き方は、量記号につく場合は[]内に、数値につく場合は

何も付けないで書くことを原則とする。

例 $C [J \cdot (mol/K)]$ 、 $180.0 MPa$

5.4.5 文献の引用 文献を引用する語句には、その末端に[]付きで全編通しの順番号を付ける。引用文献の記事は、すべてまとめて最後の章に書く。

5.5 参考文献

本文中に付した引用番号順に、1件ごとに改行して書き、それぞれに必要な事項を記載する。

○会誌の場合

[順番号]「論文題名」、著者名：雑誌名，巻，号（発行年），ページとする。

例

[1] 東正起，金子浩二：滑らかな曲線の評価基準，精密工学会誌，55，2，(1990)，pp.25-29.

○書籍の場合

[順番号] 著者名：書籍名，ページ，出版社名，発行年を記載する。

例

[2] 服部務他編，土壤微生物実験法，295，培風館，(1995).

6 表・図の書き方

6.1 表 (Table)

罫線は必要最小限にとどめる。順番号は Table 1 または 表 1 のどちらかに統一する。題名欄の配置は、表の上側で中央配置とする。

6.2 図 (Figure)

図の順番号は Fig. 1 または 図 1 のどちらかに統一する。題名欄の配置は、図の下側で中央配置とする。

写真は図と同様に扱う。

6.3 記号説明一覧 (Nomenclature)

ローマ字、ギリシャ文字、上付き (superscript)、下付き (subscript) の順に、それぞれアルファベット順 (同一文字は大文字、小文字の順) に書く。単位記号は[]で囲んで明記する。量記号の書き方は所属学協会の基準に従う。

7 キーワードの選定

研究題目、英文要旨あるいは緒言の中から次の要領で選定する。

- 一つのキーワードは3語以内を目安とし、5ワード以内とする。
- できるだけ、狭義で、具体的意義をもつ語を選ぶ。
- 名詞形を用い、最後の単語は単数形とする。

d) 元素名、核種名、化合物名、合金名等はフルスペルで示す。

e) 省略形は、その分野で広く通用するものに限る。

8 本校教員の研究活動の記録について

これは本研究報告誌の巻末に付記されるもので、昨年9月1日以降、本年8月末日までの1年間の本校教職員の研究および学外における教育活動を載録する。それらは次のようにA～Eのように分類して記述する。

- 著書刊行物 (翻訳、分担執筆含む)
- 学協会誌等への発表論文 (学協会等が催したまたは認めた国内外の研究会、研修会、講演会等で発表を行い、そのプロシーディングス、会議録、講演集等が発行され、会議名、巻、号、ページ等がはっきりし、引用文献とすることができるものを含む。)
- 学協会等における口頭発表 (上記の引用文献とすることができないもの)
- その他、上のA, B, Cに属さないもの
- 特許関連

8.1 原稿の書き方

第1行目に氏名 (和文) を左端から書き、1行あけて下記の分類順に年月順に書く。1件ごとに改行して、左端に分類番号を、1コマあけて必要事項を記載する。各事項は読点 (,) で区切る。

Aに分類されるもの

著者名 (共著の場合は共著者名を、分担執筆の場合は分担した章、表題などを括弧の中に記す)、出版社名、発行年月。

Bに分類されるもの

論文表題 (共著の場合は括弧の中にその旨を記す)、会誌名、巻、号、(発行年)、ページ。

Cに分類されるもの

表題、学協会講演会名、開催都市名、発表年月。

Dに分類されるもの

開催機関名、活動内容、開催期間等を記す。

Eに分類されるもの

- 特許出願し、出願公開されたもの
特許名、特許公開番号、公開年月日。
連名のときは連名者名も記す。
- 特許権を得たもの
特許名、特許番号、特許権取得年月日。
連名のときは連名者名も記す。

例

- A 基礎材料力学（岡田，川島，吹田，中山らと共著、岩谷 3, 5, 7 章担当），槇書店，1996 年 3 月。
- B 電磁弁の有効断面積測定法に関する研究（山口と共著），日本油空圧学会誌「油圧と空気圧」，Vol. 27, No. 3, (2012), pp. 398-402.
- C カエルの心拍変動の決定論性，日本生理学会第 79 回総会講演会，広島市，2013 年 3 月。
- D 中学生のための化学実験講座，沼津高専（沼津市），2012 年 10 月。
- D 文部科学省，科研費基盤研究 C 「爆発的天体現象における宇宙・銀河年齢」研究分担者。
- E キトサン架橋物，特許公開番号 2004-323385，2012 年 11 月 18 日。

9 その他

別刷りは希望者のみに作成する。

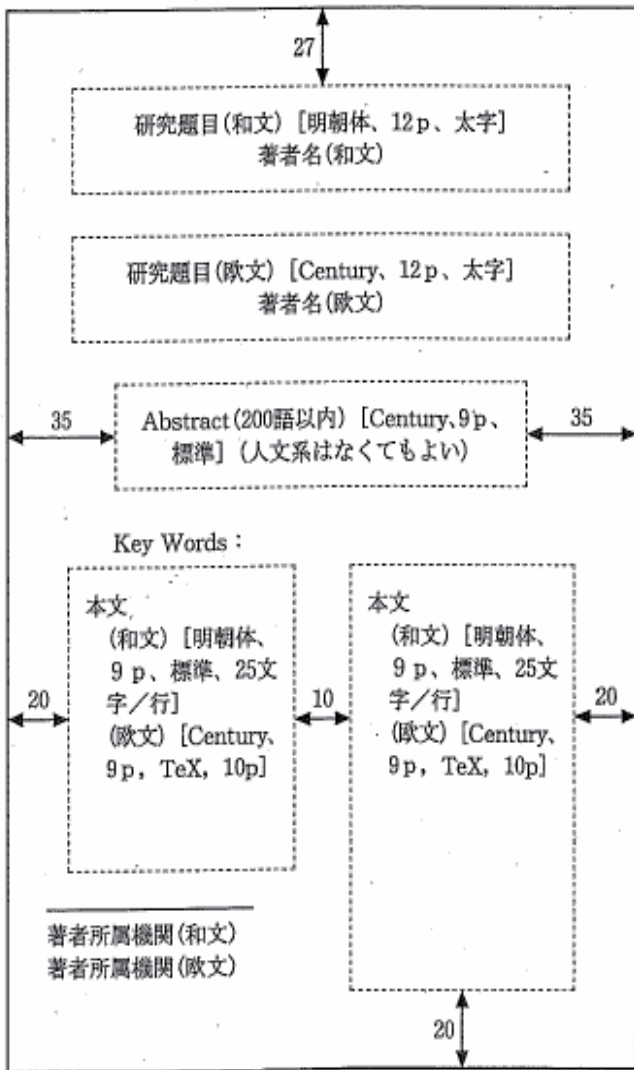
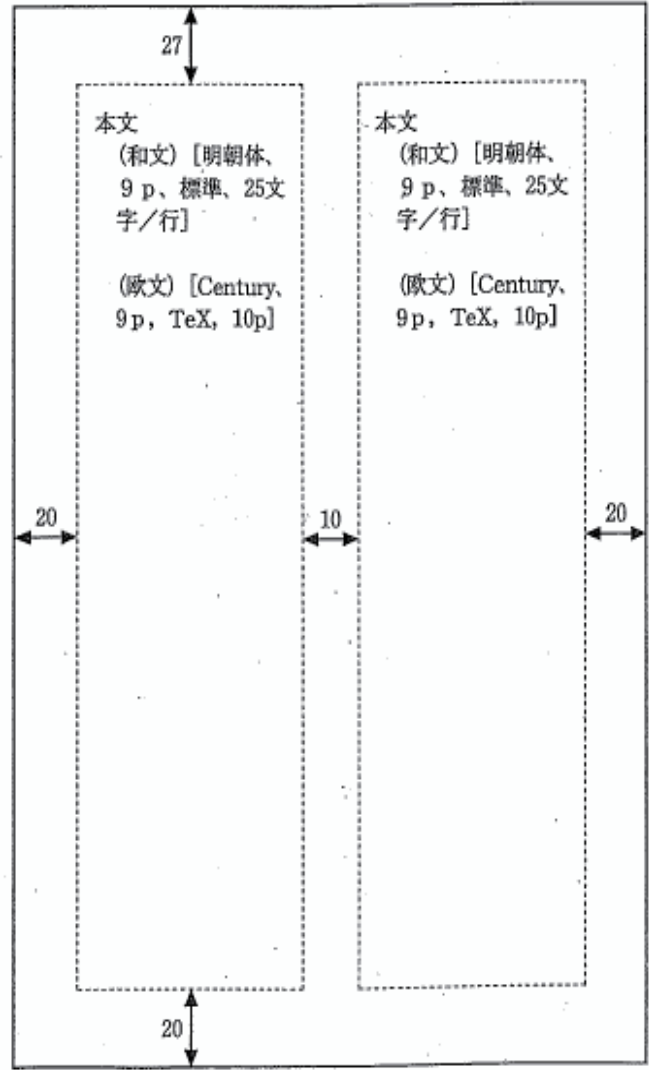


図1 1ページ目の体裁



[A 4版 全45行 全角25文字2段組]
図2 2ページ目以降の体裁